

平成 25 年 10 月 29 日	<b>病虫害発生予報</b> <b>11月号</b>	茨城県病虫害防除所 茨城県植物防疫協会
----------------------	-------------------------------	------------------------

農薬は、必ずラベルを確認し、周辺状況を考慮して使用しましょう。

＜ 目 次 ＞

<b>I. 今月の予報</b>	
<b>【注意すべき病虫害】</b>	
イチゴ：ハダニ類	1
促成ピーマン：アザミウマ類	1
<b>【防除所レポート】</b>	
本年のナシ黒星病の発生状況	2
<b>【その他の病虫害】</b> . . . . . 3	
イチゴ，促成ピーマン，秋冬ハクサイ，秋冬レタス，秋冬ネギ，共通害虫	
<b>II. 今月の気象予報</b> . . . . . 4	
<p>本文に記載されている薬剤は平成 25 年 10 月 23 日現在のものです。          最新の農薬登録内容は、(独)農林水産消費安全技術センターホームページの「農薬登録情報提供システム」(<a href="http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm">http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm</a>) で確認することができます。</p>	
<p>詳しくは、病虫害防除所へお問い合わせ下さい。          茨城県病虫害防除所 Tel:029-227-2445          予報内容は、ホームページでも詳しくご覧いただけます。          ホームページアドレス <a href="http://www.pref.ibaraki.jp/nourin/byobo/">http://www.pref.ibaraki.jp/nourin/byobo/</a>          フェロモントラップデータ随時更新中</p>	

## I. 今月の予報

### 【注意すべき病害虫】

#### イチゴ

##### 1. ハダニ類

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
平年並	多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 10月下旬現在、寄生葉率(本年値 12.6%、平年値 3.6%)、被害葉率(本年値 28.1%、平年値 3.9%)ともに平年より高く、発生地点率は平年よりやや高い。

[防除上注意すべき事項]

- ① ハダニ類は増殖が速いので、発生の少ないうちに防除を徹底する。特にビニール被覆後は発生が増加するので注意する。
- ② 薬剤は、薬液が葉裏や葉柄にもよくかかるよう十分な量で丁寧に散布する。また、薬剤抵抗性の発達を抑えるため、気門封鎖剤を除き同一系統・同一薬剤の連用を避ける。
- ③ ミヤコカブリダニ剤やチリカブリダニ剤などの生物農薬を使用する場合、ハダニ類の生息密度が高いハウスでは、薬剤防除で生息密度を下げてから放飼する。
- ④ ミツバチや天敵を使用する場合は、薬剤の影響日数等に十分注意する。

#### 促成ピーマン

##### 1. アザミウマ類

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
平年並	多い	鹿行地域

[予報の根拠]

- ① 10月下旬現在、寄生花率(本年値 56.8%、平年値 5.2%)、発生地点率(本年値 100%、平年値 49%)ともに平年より高い。

[防除上注意すべき事項]

- ① 10月下旬現在、被害果は認めていないが、アザミウマ類は増殖が速いので発生の少ないうちに防除を徹底する。また、各種ウイルス病を媒介するので注意する。
- ② 薬剤は、薬液が花や果実にもかかるよう十分な量で丁寧に散布する。また、薬剤抵抗性の発達を抑えるため、系統の異なる薬剤を散布する。
- ③ 天敵を導入しているハウスで薬剤防除をする場合は、天敵への影響に十分注意する。

## 本年のナシ黒星病の発生状況

本年の黒星病は、一部で発生が多い圃場も見られましたが、県下全域で概ね平年並～やや少ない発生で、多発生した昨年と比べ、大きく減少しました。果実では6月までは平年並の発生でしたが、7月以降は平年より少ない発生となりました(図1)。葉では4月から8月まで、平年並～やや少ない発生となりました(図2)。

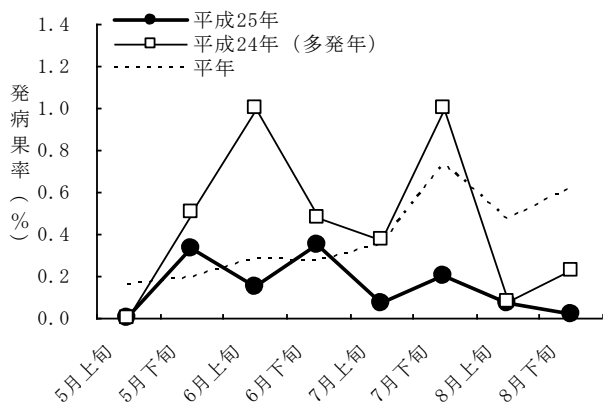


図1 果実におけるナシ黒星病の発生推移

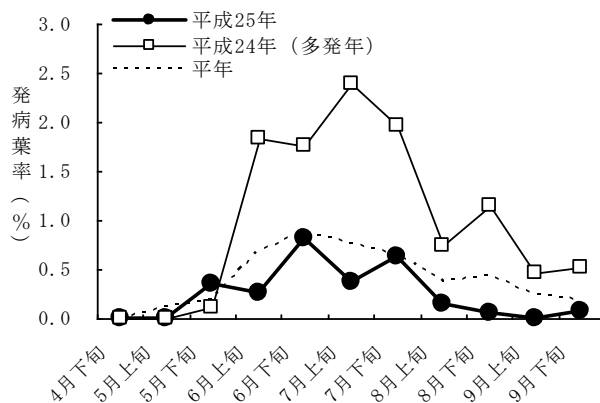


図2 葉におけるナシ黒星病の発生推移

本年の黒星病の発生が平年並～やや少なくなった要因の1つとして、開花期頃の天候による影響が考えられます。ナシ果実は開花日から20日後まで黒星病に対して感受性が高くなり、この期間に降雨日数や降水量が多く、気温が15℃～20℃になると発病に好適な条件となります。本年の開花日から20日後までの気象は、降雨日数及び降水量は平年並で、気温は平年より低くなりました(表1)。このため、本年の気象条件では特に感染を助長する条件ではなかったと考えられます。なお、多発生した平成24年は、降雨日数は平年並でしたが、降水量は平年より多く、気温は平年より高くなり、発生を助長する条件であったと考えられます。

表1 ナシの開花日から20日後までにおける気象条件

	平成25年	平成24年 (多発年)	平年 (過去9年)
降雨日数(日)	7	9	8.1
降水量(mm)	64.5	181.5	82.2
平均気温(℃)	11.9	16.6	14.6

園芸研究所の開花日を基準とした。平成25年は4/11、平成24年は4/24。  
気象条件は笠間のアメダスデータを使用した。

本年10月中旬に黒星病の秋型病斑調査を行ったところ、平年よりやや少ない発生となりました(表2)。秋型病斑は翌年の伝染源になるため、秋季防除を徹底するとともに落葉処理を必ず行うことが重要です。

表2 ナシ黒星病秋型病斑の発病度と地点率

	発病度 <sup>1)</sup>			発生地点率(%)		
	平成25年	平成24年	平年	平成25年	平成24年	平年
全県	0.9	1.6	0.9	20	94	63

1) 発病度 =  $\Sigma (2A + B) / (2 \times \text{調査葉数}) \times 100$   
A: 病斑が葉全体の1/2以上に分布する。B: 病斑が葉全体の1/2未満に分布する。  
調査葉数は300枚。

【その他の病害虫】

作物	病害虫名	発生予測	発生概況及び注意すべき事項
イチゴ	炭疽病	発生量：平年並～やや多い	10月下旬現在，平年並～やや多い発生である。発病株はただちに抜き取り，適切に処分する。
	うどんこ病	発生量：平年並	10月下旬現在，平年並の発生である。
促成ピーマン	うどんこ病	発生量：やや多い	10月下旬現在，平年よりやや多い発生である。
秋冬ハクサイ	軟腐病	発生量：平年並	10月下旬現在，平年並の発生である。
	白斑病	発生量：やや少ない	10月下旬現在，平年よりやや少ない発生である。
秋冬レタス	斑点細菌病	発生量：平年並～やや多い	10月下旬現在，平年並～やや多い発生である。
	菌核病	発生量：平年並	10月下旬現在，平年並～やや少ない発生である。
	腐敗病	発生量：平年並	10月下旬現在，平年並の発生である。
秋冬ネギ	べと病	発生量：平年並	10月下旬現在，平年並の発生である。
	ネギアザミウマ	発生量：平年並	10月下旬現在，平年並の発生である。
共通害虫	オオタバコガ	発生量：－	10月下旬現在，フェロモントラップへの誘殺数は，水戸市，龍ヶ崎市で平年より多く，土浦市で平年よりやや多く，筑西市で平年並である。
	ハスモンヨトウ		10月下旬現在，フェロモントラップへの誘殺数は，鉾田市で平年より多く，笠間市，土浦市，龍ヶ崎市で平年よりやや多く，水戸市，筑西市で平年並である。

## II. 今月の気象予報

関東甲信地方1か月予報

(予報期間 10月26日から11月25日)

気象庁(10月25日発表)

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

[確率]

要素	予報対象地域	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気温	関東甲信全域	30	30	40
降水量	関東甲信全域	20	40	40
日照時間	関東甲信全域	30	40	30

[概要]

平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

<1週目の予報> 10月26日(土曜日)から11月1日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並または高い確率40%

<2週目の予報> 11月2日(土曜日)から11月8日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並の確率40%

<3週目から4週目の予報> 11月9日(土曜日)から11月22日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並の確率40%

### 農薬を使用する際は

- 1 使用する農薬のラベルを必ず確認し、適用作物、使用方法、注意事項等を守りましょう。
- 2 散布時には、周辺作物に飛散(ドリフト)しないよう注意しましょう。
- 3 農薬の使用状況を正確に記録しましょう。
- 4 使用後は散布器具やホース内等に薬液を残さず、良く洗浄しましょう。